

千葉敬愛短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

千葉敬愛短期大学の概要

設置者	学校法人 千葉敬愛学園
理事長	長戸路 政行
学 長	長戸路 雄厚
A L O	長戸路 雄厚
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	千葉県佐倉市山王1-9

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
初等教育科		150
	合計	150

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

千葉敬愛短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月14日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

開学以来不変の建学精神と教育理念が確立、明示されており、教育目標については教授会で点検が実施されているほか、教職員、学生に対して周知が図られている。

全体的に、教育理念や教育目標を反映した教育課程が構築されており、学生の希望に応える工夫がなされている。ほぼ全員が共通の目的意識を有しており、学園の一体感が感じられる。短期大学全体としても、学生の免許・資格取得のための支援をしている。

短期大学設置基準の教員数を充足しており、教員は短期大学教員に相応しい資格、資質を有している。

総合的に見て、図書館などの施設は、短期大学としての機能を果たし、整備状況も良好である。教育目標達成への体制や努力は充分である。専門職への就職は十分な実績がある。実習中の巡回や実習先との連絡協議の場などを通じて卒業生の評価は良好である。

入学前後のサポート体制がある。学生支援や学生生活支援体制も整備されている。就職希望者に対して全学的な進路支援が行われている。

理事会など学校法人全体、ならびに短期大学の教授会をはじめ事務組織、人事管理などの管理運営体制は確立されており、適切に行われている。

予算の策定、執行、出納業務は円滑に行われており、財務情報の公開も適切で、計算書類などは適正に表示されている。教育研究経費比率は適切であり、施設・設備の整備、管理は適正に行われている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神である「敬天愛人」に関する論文を教職員・学生から募集し、建学の精神・教育理念の啓蒙を図っている。

評価領域 教育の内容

学生の免許・資格取得のために、短期大学全体で取り組んでいる。

授業は少人数規模中心で行われ、学生の学習条件整備に積極的である。

評価領域 学生支援

学外オリエンテーションにおける「2年生チューター」制度を設け、学生による学生のための支援としての成果を上げており、「リーダーズ研修」としても機能している。

評価領域 管理運営

評議員会を理事会の単なる諮問機関として位置づけているのではなく、重要事項については評議員会の議決事項としており、理事会のチェック機能の強化を図っている。

法人内各校責任者協議会、部局長連絡会議、事務連絡会議が定期的で開催されており、意思疎通、情報の交換・共有に有益である。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は崇高であるがやや難解であるので、学生を啓発する具体的な表現（現代的な意義）の検討、および教育目標について、学生との共有について一層の努力を期待する。

評価領域 教育の内容

学生が自由に履修できる選択科目が少ない。特に教養部門の一層の充実を図りたい。

評価領域 教育の実施体制

利用者が減少している状況を勘案し、図書館の利用促進についての対策を検討されたい。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

成績評価の基準と方法を点検し、より公正かつ厳格なあり方を検討されたい。

評価領域 研究

研究活動については、研究業績を定期的に点検評価するシステムの確立と、実習指導と研究・研修の両立について検討されたい。

評価領域 改革・改善

ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の組織的な体制の確立を検討されたい。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

教員および保育士の養成課程を通して、西郷隆盛の思想「敬天愛人」の建学の精神を具体化したものが、カリキュラム、行事などに示されており、平成15年に見直しが行われているほか、教授会などで必要な点検がなされている。

教職員に対し、『目標と課題』を配布しているほか、広報誌を通して共有を図っており、また学生に対しては入学式などを通して教育目標などの周知を図っている。しかし、建学の精神は崇高であるがやや難解であるので、学生を啓発する具体的な表現（現代的な意義）の検討、および教育目標について、学生との共有について一層の努力を期待する。

評価領域 教育の内容

各学科とも建学の精神に裏付けられた教育課程となっているが、基礎科目の拡充が望まれる。専門教科については充分である。主要科目は専任教員が担当し、その内容およびレベルは短期大学にふさわしいものである。

各免許・資格取得に応じた教育課程となっており、授業形態のバランスは適切であり、各授業に学生が積極的に臨めるような配慮がなされている。

シラバスは学生に配布されており、内容も適切であるがあまり活用されていない。シラバスの有効な活用について改善を図る必要がある。

評価領域 教育の実施体制

短期大学設置基準の教員数を充足しており、教員は短期大学教員に相応しい資格、資質を有している。教員の採用や昇任については規程に基づいている。教員の年齢構成は、近年バランスを図っているが、60歳代に偏りがみられる。教員は授業担当のほか、諸活動に意欲的に関わっている。学長のリーダーシップの下、教務部長および各委員会が機能しているが、学科長職は存在しておらず、学科長職を置くことが望ましい。

校地および校舎の面積は、いずれも短期大学設置基準を充たしている。

メディアセンターには、蔵書、資料、座席数など設備が整っている。学内外への情報発信など多様なサービスが行われている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学生の「アンケートレビュー」(年2回)の結果は、おおむね良好である。

留年は過去3年間なし、退学は毎年2～3%程度であるが、大部分の科目で不合格者が皆無である。成績評価の厳格性・公平性について疑問の余地がある。成績基準と評価方法について再点検を求められたい。

保健室、学生相談室、担任制による学生へのケア体制は多面的であり、効果的である。専門就職は良好である。

実習中の巡回や実習先との連絡協議の場などを通じて、卒業生の評価は良好である。

評価領域 学生支援

入学式数日前にオリエンテーションを実施し、必要な情報などを伝達できている。1年生次、2年生次にそれぞれガイダンスを行い、学生便覧なども整備されている。

短期大学独自の奨学金制度が整備されている。

就職推進委員会などが設置され、情報提供の体制が整っている。資格取得・就職試験対策は充実しており、高い就職率を維持している。進学などの希望者への対応のため教員を配置するなど、進路支援に努力している。

評価領域 研究

教育に主眼を置きつつ、研究活動にも力を入れている。教員の研究活動は一定の成果を上げている。しかしながら、外部からの研究費補助などの業績はない。短期大学紀要が年1回発行され関係者に配布されている。

研究費規程の整備、研究室の確保など、基本的には研究活動のための条件整備はなされている。研究活動状況についての報告義務がないことについては改善の余地がある。

評価領域 社会的活動

教員、学生に対して、ともに社会的活動への積極的参加を推進している。地域とのかかわりのなかで、成人向け公開講座や子供向けの公開講座、関係機関・団体からの要請による交流活動が行われている。

学科の目的に沿った形での学生のボランティア活動が奨励されている。実践例としては、小学校教諭二種免許課程の学生による児童を対象とした「通学合宿」への参加などがある。

評価領域 管理運営

理事会、監事、評議員会は寄附行為の規定に基づいて、それぞれの任務・役割を果たし、重要事項については評議員会の議決事項としており、理事会が業務決定を行うにあたりチェック機能の強化を図っている。法人全体の管理運営体制は確立されており、適切に運営されている。

教授会、各委員会の運営体制は確立され適切に運営されており、短期大学の運営全般にわたって学長（理事）が理事会とのパイプ役を担い、リーダーシップが適切に発揮されている。

評価領域 財務

5年周期の中期経営計画が策定されており、所定の手続を経て当該年度の事業計画と予算が理事会にて承認、議決されている。予算の執行は所定の手続を経て行われ、出納業務も点検、査定を受け円滑に実施されている。公認会計士と監事による監査業務の打ち合わせも実施しており、計算書類・財産目録などは適正に表示されている。また資金などの運用は規程に基づき安全・確実性をモットーに行われている。月次試算表は理事長に報告されており、財務情報の公開も適切である。

予算の策定、執行、出納業務は円滑に行われており、財務情報の公開も適切で、計算書類などは適正に表示されている。教育研究経費比率は適切であり、施設・設備の整備、管理は適正に行われている。

評価領域 改革・改善

規程、組織などは整備され、『現状と展望』と題する自己点検・評価報告書が刊行されている。

自己点検・評価活動にほとんど全ての教員が関わり、事務職員も参画しており、全学的な取組みとなっている。

授業評価はITシステムを活用しているほか、自己点検・評価委員会が設置されている。非常勤講師とは連絡ファイルを活用し、毎年度末には意見交換を行っている点は評価できる。メディア委員会によるIT能力のための講習会も実施されており、授業改善には前向きに取り組もうとしている。